

イエスの叫び、人々の反応

(ヨハネ七・三七〜四四)

あれはもうひと昔も前。神学校関係の会議で東南アジア某国に出張した時の事である。「先生、この食堂はお世辞にも美味しいとは言えませんよ」と留学していた日本人学生に言われたのだが、「伝道者たるもの好き嫌いがあつてはいけない。出されたものは文句を言わずに何でも食べる」と意識づけてきた身だから「まっ大丈夫だよ」と軽く切り返した。ところが、である。三日も過ぎると食堂に向かうのがどうにもしんどい。正直ものすごく不味いというわけではない。しかしなんと無味乾燥なのである。料理はその国の個性。そこをしつかり打ち出せばいいのに、そこに集う「国際的」な人々の味覚に合わせようとした結果、実に味気ない料理が出来てしまったように思えた。要は中途半端なのだ。

人間もそうだ。真実な人間、阿らな人間、凄みのある人間の評価ははっきり分かれる。その人が歩くど熱狂的なファンとアンチが分かれていく。イエスもそうであった。今朝は仮庵の祭りの最終日、イエスが大声で叫んだメッセージとそれに対する人々の反応を見ていきたい。

一・イエスのメッセージ

時は仮庵の祭りの最終日。この一日前、祭司たちは伝統にのっとり金の細口瓶にシロアムの池から汲んだ水を満たし、大祭司を先頭に神殿に入つていった。街にはラッパの音が響き渡り、神殿の聖歌隊はハレルの詩篇、即ち一一三〜一一八を詠唱し、そこで巡礼者達はミルトスの枝をヤシに結びつけたものを振り挙げ、「主に感謝せよ」を三唱した。そうして水は神に奉納され、その後銀の洗盤に注ぎだされた。これらの儀式は父祖たちが荒野を旅していた時の神が水を供給し、必要が満たされたことへの感謝、また終りの日に主ご自身が注ぐであろう聖霊を予表していた。儀式は滞りなく終わり、彼らの日常が戻るうとしていたその時、イエスは叫んだ。「誰でも渴いているなら、私のもとに来て飲みなさい。」と。実に大胆な宣言である。イエスが叫ぶ1日前に成された儀式は儀式ではない。それは毎年繰り返されなければならない。だがイエスはその儀式が予表している聖霊を、実にイエスご自身が渴いた人間の心に注ぎ、その人の腹、即ち心の座を満たし、あふれさせてくださることを証したのである。イエスはこのメッセージを先にサマリヤの女にも語つたのだが(参：四・一四以下)、ここでは多くの人に聞こえるように、大胆に自らがいのちの水である聖霊の授与者であ

ることを宣言されたのである。もつともそれは十字架の出来事の後に現実化するのではあるが。

二・人々の反応

三九節は福音書記者による、読者のための注解であるが、先に述べたような背景を知っている一般の民衆たちは、この解き明かしが無くてもイエスの真意を理解することが出来た。勿論イエスが苦難の中で栄光を現されるメシアであるという正確なメシア理解をこの時点で彼らが得たということはない。それは彼らがイエスをあの預言者と語つたことにも明らかである。しかし何はともあれ、こうした人々はイエスに期待した。積極的に応答したのだ。

他方、このエツジの立ったイエスの自己宣言は少なからぬ反対者をも生み出した。あるものはイエスの出生を知らなかったこともあり、「ガリラヤなまりの田舎者が、なぜにメシアを気取るのか」といつてイエスの言葉を否定した。またすでにイエスに対する敵意をむき出しにしてユダヤ教の指導者たちは、役人たちからの報告を聞くなりイエスの言葉に耳を傾ける群衆たちを「律法を知らないもの」と断罪した。更に彼らは指導者仲間のニコデモの諫言も受け入れず、益々心をかたくなにした。自らをメシアとし、いのちの御霊の与え主として

自らを規定したイエスのメッセージは確かに人々を受容と拒否、信仰と不信とに二分したのである。

* * *

「いや、しかし先生、それはあんまりじゃあないですか」普段は舌鋒鋭くゲストに迫り事の真相を「聞き倒す」あの強面キヤスターがタジタジとしている。しかしその相手はと言えばシャイな笑みを浮かべ、少しだらりと椅子に腰かけた初老の紳士。だが見かけとは裏腹にそのことばは厳しい。がんに侵され、生きる希望を失っている人に向かって「使命をもつて生きること、これが大切」「いつこの世を去るのか。いのちの期限は誰にもわからない」「人生は、訓練だから」とさらりと言うのだ。また妻ががん患者になつた夫には「がんになつたからといっていきなり優しい声で旅行にでも行くかなどと言うのはダメ」とズバリ。しかし彼のことは全くの真実だ。だからこそそれらの言葉は「処方箋」となり、多くの人を助けている。翻つてイエスの事を考えるとき、彼は神の「ことば」そのものであり、「真理」そのものである。その彼が語るのだ。聞く者が決断を迫られるのは当然だ。イエスの与えるいのちの水を飲むならば、枯れ果てるハッピーではなく、湧き上がるジョイに生きるこ

とが出来た。友よ、あなたはどうか。